



# 麻酔科

## 初期臨床研修

### 1. 1年次ローテーションの研修内容

本院での初期研修では2ヶ月の手術室での麻酔研修が必修であり、選択により1ヶ月の集中治療部研修が可能である。麻酔を研修する目的は2つある。1つは現代医療において極めて大きなウェイトを占める手術治療に参加することによって、手術がどのように行われどのような役割を果たしているかを理解することであり、もう一つは気道確保や人工呼吸、ライン確保、モニターによる患者監視といった医療の基本的な手技を集中的に学ぶことである。集中治療部研修では、術後患者を中心に重症患者の管理を体験する。

#### [研修目標]

- ①麻酔科医、執刀医、看護師、臨床工学士らの協力体制で成り立っている手術室業務に参加することで、チーム医療のあり方を学ぶ。
- ②手術が患者にとって最も大きな精神的、身体的ストレスのひとつであることを理解し、周術期の患者への適切な対応を学ぶ。
- ③カルテや患者から病歴聴取、主治医との話し合いにより、麻酔管理上必要な情報を集め、記載することが出来る。
- ④麻酔準備を通して、気道確保、人工呼吸、循環監視に必要な用具とその準備に習熟する。
- ⑤バッグアンドマスクによる気道確保と人工呼吸、気管挿管（困難気道症例を除く）、ライン確保、動脈カテーテルの挿入、経鼻胃管の挿入の手技に習熟する。
- ⑥身体兆候、モニターによる観察を通して、バイタルサインの的確な把握、患者の生理状態の正確な評価が出来る。
- ⑦人工呼吸器、シリンジポンプ、各種モニター機器などの医療機器の取り扱いに習熟する。
- ⑧劇薬あるいは毒薬に分類される薬剤の安全な投与方法を学ぶ。
- ⑨術後患者がたどる経過を知り、適切な術後管理のための指示が出せる。

### 2. 2年次ローテーションの研修内容

麻酔領域の2年次ローテーションの位置づけとして

- 1) 将来の専門領域として麻酔科学を目指す研修医に対する麻酔科研修
- 2) 将来他科での専門研修を目指す研修医に対する関連領域としての麻酔科研修の2つを想定している。

#### 1) 麻酔科を将来の専門領域とする研修医向けの研修内容

麻酔科が携わる診療領域は、手術室での麻酔、痛みの治療、集中治療、緩和医療と多岐にわたる。この研修ではこれら麻酔関連領域を広く研修領域として提供し、診療技術のスキルアップを図ると共に将来の麻酔科専門医としてのキャリアプランニングに資することを目標としている。具体的には研修医の希望に合わせて、中央手術室での麻酔、デイサージャリーでの麻酔、集中治療、疼痛治療、緩和医療の各領域あるいはそれらを組み合わせたプログラムを提供することが可能である。

#### [研修目標]

#### 中央手術室での麻酔研修

1年次研修の研修目標に加え以下のことを目標とする。

- ①手術前の患者と面接し、麻酔に関連する説明が行える。
- ②困難気道症例への対処法を学ぶ。

- ③ハイリスク症例への麻酔計画を学ぶ。
- ④危機的出血への対処法を学ぶ。
- ⑤開心術、移植手術などの高度な麻酔管理を学ぶ。
- ⑥中心静脈カテーテルの挿入法を学ぶ。

#### デイサージャリーでの麻酔研修

手術部での研修目標に加え特に以下のことを目標とする。

- ①日帰り手術（ambulatory surgery）を成功させるための麻酔管理にどのようなスキルがあるか理解する。
- ②日帰り手術の成功にとって障害となる周術期合併症について理解し、その予防法、治療法について理解して実践できる。
- ③ラリングルマスクの構造ならび利点・欠点を理解し、適応を判断し、正しい手順で挿入して麻酔管理ができる。
- ④疼痛管理法としての末梢神経ブロックの重要性を理解して超音波エコーガイド下に安全に施行できる。

#### 疼痛治療研修

- ①痛みの評価法を学ぶ。
- ②オピオイドを含む鎮痛薬、鎮痛補助薬の使用法を学ぶ。
- ③神経ブロックの適応と手技を理解し、患者さんに説明できる。

#### 集中治療部研修

- ①重症患者の病態把握が出来る。
- ②病態に応じた人工呼吸器の設定、人工呼吸器からの離脱が実践できる。
- ③各種モニター、心エコーを用いた循環動態の把握が出来る。
- ④気管支ファイバースコープを用いた気道管理が行える。
- ⑤各種血液浄化の適応の決定、実践が出来る。
- ⑥重症感染症に対する診断、治療の方針を立て、実践できる。
- ⑦敗血症に対する治療方針を立て、実践できる。

#### 緩和医療研修

- ①緩和ケアチーム（がんサポートチーム）の活動に参加する。
- ②がん性疼痛の診断を行い適切な目標設定を行い具体的な治療方針について提案、実践できる。
- ③がん性疼痛治療としての神経ブロックの適応の決定、実践ができる。
- ④がん患者の疼痛以外の身体症状について適切にマネジメントできる。
- ⑤がん患者および家族の抱える心理的・精神的、社会的な問題を理解する。

将来の専門性を見据えた上での、スキルアップにつながる研修先として以下の診療科のローテーションを推奨します。

放射線診断、神経内科、循環器内科、ICT

#### 2) 将来、他科での専門研修を前提とした麻酔科研修

他科の専門性のスキルアップのために麻酔関連領域を選択する場合には手術室の麻酔研修と集中治療部研修が対象となる。研修の内容、目標は1)と同様であるが、研修によって得られるスキルは、将来どの診療科で専門研修を行うにしても必ずや役立つと確信している。2年目の研修に麻酔、集中治療を選択されることを強く推奨します。